





左の写真は昭和18年の全校朝会の様子です。当時は入新井第五国民学校という名前で、最も児童数が多い1142名の学校でした。ここに並ぶ子どもたちは、翌年、戦火を免れるために、静岡県に疎開することになります。伊豆の嵯峨沢館（現在もあります。）、静岡県の心岳寺・光心寺・梅林寺、ほか静岡方面の各所に避難していきました。翌年昭和20年4月に、残念ながら本校は空襲で焼失してしまいます。

右の写真は、今から約60年前（1959年）の、学校の写真です。今ある鉄筋校舎ができる前の風景です。当時でも、児童数は900名以上という記録があります。子どもたちが、この校庭で遊んだり運動したりする姿が、目に浮かびます。



下の図は、創立当時からの校舎の変遷です。開校当初はとても狭い敷地でした。

